

CBA ref 2023- RMCI



A field guide to
Reverse Mode C



Table of Contents

- 2 **Overview**
- 4 **Setup**
- 6 **Getting Started**
- 8 **Controls**
- 16 **Hidden Options**
- 20 **Balance & Offset**
- 24 **Modulation**
- 28 **Sequencing**
- 34 **Customize**
- 36 **Ramping**
- 38 **External Control**
- 40 **Bye**

Reverse Mode Cは2008年にリリースされた
Empress Superdelayに収められていたとても特
別なモードへのトリビュートです。

Empress Effectsとのコラボレーションで届けら
れます。



9V DC Power req: 9VDC Center Negative ~270 mA

Overview

Reverse Mode Cはとても鮮やかなディレイ。

周囲のアンビエンスを豊かに彩り、大きな動きのある背景を作り出し、貴方の演奏とコントラストを成すように高揚させる。

もちろんとてもクールなりバースディレイサウンドも。

その仕組みは？

Reverse Mode Cには3つの異なるエコー・ボイスがあり、異なる方向へ動きます。

Forward



Reverse



Up or Down Reverse Octave



これらのボイスを独立、組み合わせ、またはシーケンスさせて、全ての方向へシフトしステレオ空間へ拡散する興味深いリフレクションを創造できます。更にディレイタイムにシンクまたは完全な漂流も可能な、フレキシブルなモジュレーションが彩ります。

貴方の周りの空間へ命を吹き込む、特別な体験です。



ではやり方を学ぼう。

Setup

Reverse Mode Cを新しいホームに馴染ませよう。あなたがギターペダルについて経験豊富なら、いくつかの項目は飛ばしても大丈夫です。

POWER

Reverse Mode Cは9VDCセンターマイナス電源で動作します。最低270mA必要です。

サプライにはこんなマークがあるはず:



I/O

Reverse Mode Cはモノラル、ステレオ、モノラルトウステレオで使用できます。デフォルトの設定で、モノカステレオどちらにも自動的に対応します。

モノイン、モノアウト



TS CABLE

ステレオイン、ステレオアウト



TSR CABLE

多くのステレオデバイスは2つのモノラルジャックを備えます。その場合は以下のようなY字のデュアルTSケーブルが必要です。



モノラル入力をステレオ出力へスプリットしたいなら、MISO dipスイッチをオンにしてください。

またReverse Mode Cで広大なステレオイメージを作りたい場合は、SPREAD dipスイッチ(p34)をオンにしてください。

OPTIONS

Reverse Mode Cにはあなたの体験をカスタマイズして微調整できるオプションがあります。全て知りたいなら、以下のページをチェックしてください。

- Hidden Options (pg. 16)
- Customize (pg. 34)
- Ramping (pg. 36)
- External Control (pg. 38)

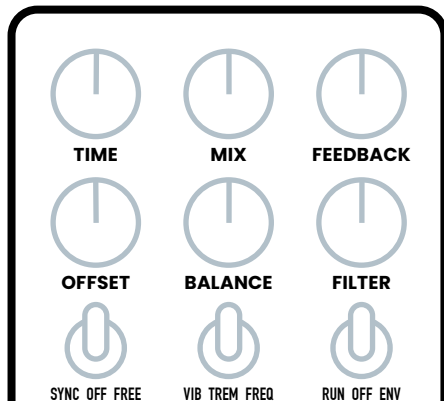
ややこしくてわからない？まず最初はdipスイッチは全てオフにしてスタートするのが良いでしょう。



OK, では始めよう。

Getting Started

まずは馴染み深いところから始めよう。



ナイスで、クリーンなエコー。

上段のノブはディレイの基本的なコントロールです。心地よいサウンドのために、時間を掛けてこれらをしてあげてください。FILTERの調整も試してみてください。

さあ、ここからが「多方向」になるときです。

multidirectional
directional



BALANCEノブを反時計に回していくと、エコーが段々と方向を変えながら、次のボイスへ変化していくのがわかるはずです。最大にして、3つのボイスを同時に聴いてみましょう。



OFFSETノブを回してボイスが離されていくのを聴いてみよう。各ボイスは個別のタイムで、ミックス内で自分の居場所を見つけるよう動きます。

OFFSET

ではここでいくつか動きを加えよう。これからが、命が宿る瞬間です。

まずは少しのモジュレーション。

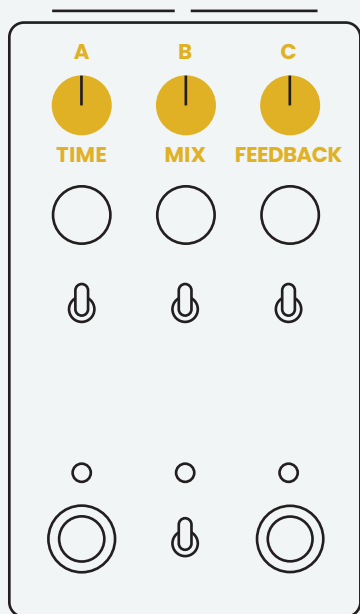


RUN OFF ENV

最後はボイスのシーケンス。

もうきっとかなり幻想的になったはず。じゃあどういう仕組みかを見ていこう。

Controls - Knobs



Space, blend, repeat.

A

TIME

全体のディレイタイムを設定します。最大タイムは4.19秒（サンプルレートを半分にした場合は8.38秒。詳細はフットスイッチの章p15へ）。タップテンポを使ってディレイタイムを設定することも出来ます。

B

MIX (RAMP)

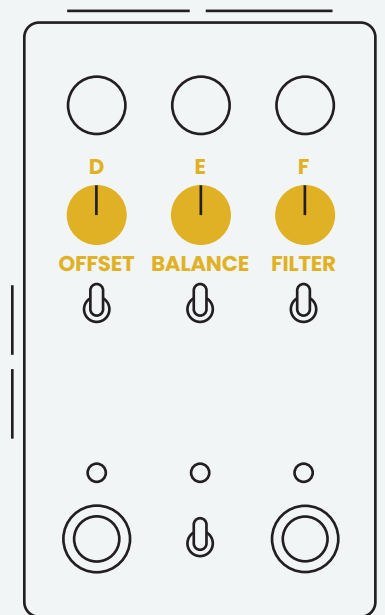
入力信号とエフェクトのブレンド比を設定します。Ramping(p46)が有効のときこのノブは役割が変わり、rampムーブメントのスピードを設定します。

C

FEEDBACK

エコーの回数を設定します。このノブを最大にしても発振するおそれはありません。あるときは一定かつ無限の積み重なり、またあるときは遠く溶解していくディケイを形成できます。

Controls - Knobs



Split, solo, shape.

D OFFSET

OFFSETは2つ目のタイムノブのように考えられます。3つのボイスを離していき、メインのTIMESノブ（またはタップテンポ）にリンクした異なるディレイタイムを適用します。最小では3つのボイスは全体のディレイタイムと同様、ノブを上げていくと各ボイスは独自の理論に基づきタイムが徐々に変化します。詳細はp22を御覧ください。

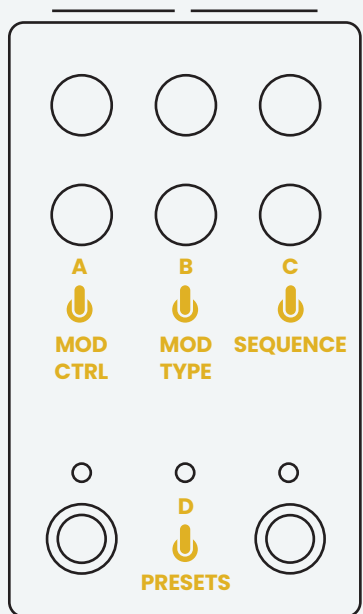
E BALANCE

3つのボイスのボリュームを設定します。ノブ左半分は独立、またはボイス間のブレンド、そして右半分は相対的なレベル変化で異なるミックスとなります。詳細はp21を御覧ください。

F FILTER

デュアルハイパス/ローパスフィルターを制御します。12時を中央に時計回して低域を取り除き、反時計回して高域を取り除きます。

Controls - Toggles



Modulate, morph, save.

A

MOD CONTROL

モジュレーションをオンオフとタイムへ同期するかを設定します。

SYNC - オン、レートはディレイタイムと同期

OFF - モジュレーションをバイパス

FREE - オン、レートはディレイから独立した自由な速度

B

MOD TYPE

モジュレーションタイプを選択します。

VIB - ビブラート

TREM - トレモロ

FREQ - フリーケンシーシフト

C

SEQUENCE

異なるボイスへ切り替えていくシーケンサーをオンにします。持続して動かすか、入力信号のエンベロープでマニュアルでトリガーも可能です。

RUN - シンセスタイルのシーケンサー

OFF - シーケンス無し

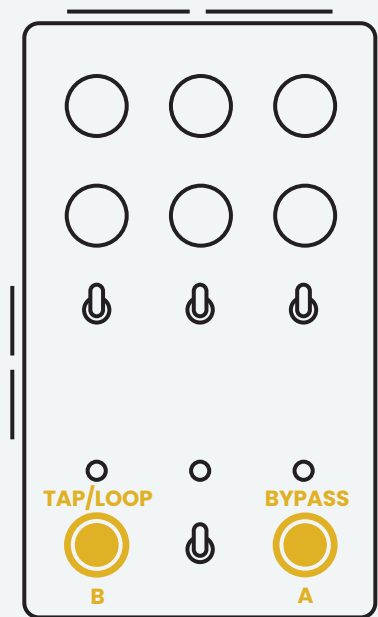
ENV - エンベロープで制御するシーケンサー

D

PRESETS

トグルスイッチ右と左のポジションへプリセットを保存し、いつでも呼び出すことができます。中央はライブ設定で現在のセッティングを反映します。プリセットを保存するには、保存したい方向のフットスイッチを3秒長押しし、押しながらもう一方のフットスイッチを更に3秒長押しします。保存に成功するとLEDが点滅します。

Controls - Footswitches



Tap, loop, engage.

A

BYPASS / SAMPLE RATE

タップでペダルを有効にします。

A

HOLD

長押しでサンプルレートを半分へカットします。最大ディレイタイムを8.38秒まで伸ばされ、マイルドでローファイな音質に。現在鳴っているエコーはハーフスピードで再生されます。

B

TAP / LOOP

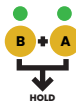
タップでディレイタイムを設定します。

B

HOLD

長押しで現在の瞬間をキャプチャーし無限に繰り返します。

LATCH - 長押しのコマンドはデフォルトではモーメンタリー動作となり、離すとエフェクトも消えます。LATCH dipスイッチ(p35)を有効にするとスイッチを離してもエフェクトを持続します。

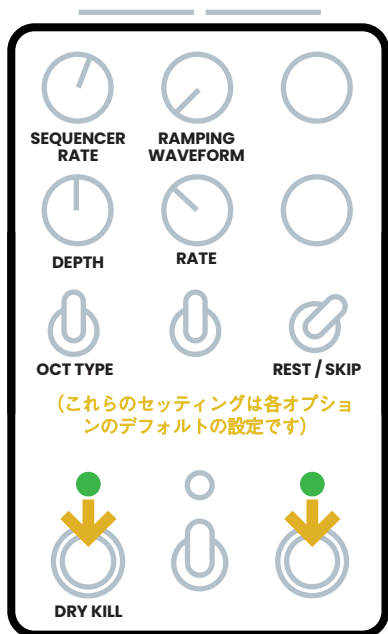


HIDDEN OPTIONS

両方のフットスイッチ長押しでセカンダリーコントロールへアクセスでき、Reverse Mode Cの様々な側面をファインチューン出来ます。スイッチを押したまま設定を変更し、完了したらスイッチを離してください。次ページで設定できるオプションを詳しく解説します。

Hidden Options

LEDが緑になるまで両方のフットスイッチを長押しすると、隠されたオプションへアクセスできます。



SEQUENCER RATE

シーケンサーのスピードを設定します。各オプションは異なるサブディビジョンでディレイタイムへシンクしています。



RAMPING WAVEFORM

rampingムーブメントの波形を選択します(p36)。トライアングル、スクウェア、サイン波、ランダム、スムーズランダムから選択可能です。



MODULATION DEPTH

モジュレーションの強度を設定します。

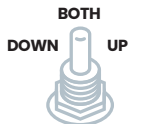


MODULATION RATE

モジュレーションのスピードを設定します。高い設定ではオーディオレートに突入し、より荒い質感のテクスチャを描きます。

SWAP - SWAP dipスイッチ(p34)をオンにすることで、モジュレーション制御のパラメーターを隠されたオプションではなくペダル前面のコントロールとして使えます。

Hidden Options continued



SYNC OFF FREE

OCTAVE TYPE

リバースオクターブのボイスにおいて、オクターブをアップまたはダウンから選択します。通常は1つのみを選択可能ですが、中央のポジションではシーケンサー有効時のみ、両方を同時に使用できます(詳細はp31)。



RUN OFF ENV

REST / SKIP

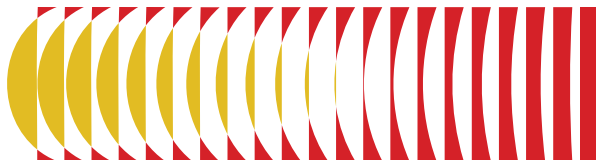
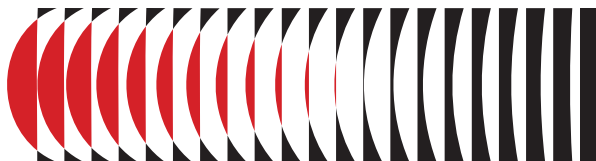
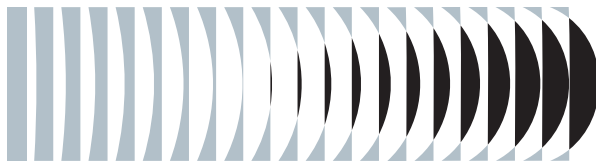
BALANCEノブによってミュートされたボイスを、シーケンサーがどう扱うかを選択します(詳細はp21)。



RESET

全ての秘密のオプションをデフォルト設定へ戻したい場合は、プリセットグルを左へ倒して中央に戻す、これを3回繰り返します。LEDが点滅したら、両方のフットスイッチを押してリセットを確定します。

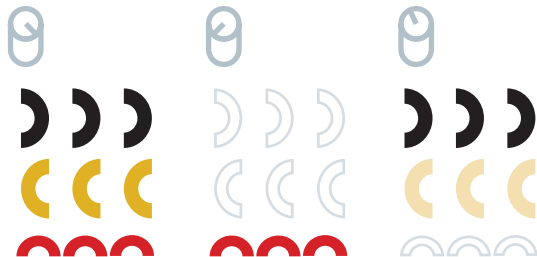
DRY KILL - ドライ信号を出力から取り除きたい場合は、TAPスイッチを押しながらペダルの電源を入れます。これでペダルはドライキル設定となります。この設定は電源を落とした後も記憶されます。



Balance & Offset

これらのノブはディレイボイスを制御します。

BALANCEはボリューム設定です。



OFFSETはボイスのタイミング設定です。



Balance

BALANCEは貴方が聴くボイス(たち)を制御します。

ノブの左半分は特定のボイスのみ、または隣り合うボイスをブレンドして出力します。

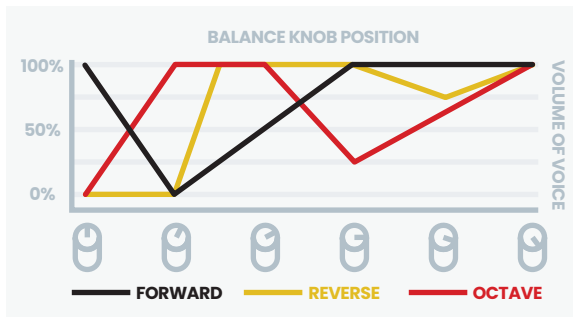


これはシンプルなりバースディレイのみ。



これは通常のディレイとリバースディレイを同時に鳴らします。

ノブ右半分は3つのボイス全てを同時に鳴らします。ノブを回すごとに3つのボイスの相対的なレベルが変化していきます。



Offset

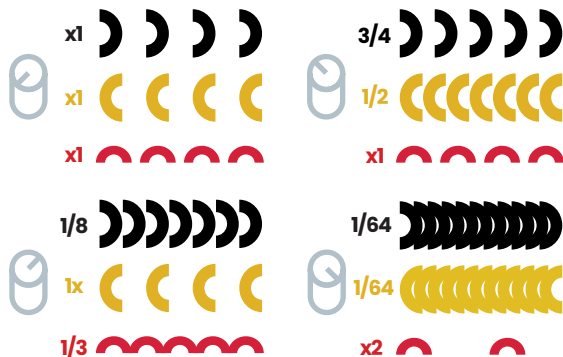
OFFSETはボイスのタイミングを設定します。



OFFSETはこれらのボイスを離し、それぞれ独自の
ディレイタイムを与えます。空間においてスペースと
セパレーションを生むことで、1つのボイスをもっと
明瞭に聴いたり、興味深いリズムカルな関係の構築も
可能です。



ノブの変化には心地よくシンクするよう設計された4
つのターゲット位置があります。



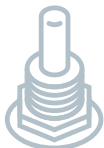
それ以外の変化においてもスムーズに値が変わり、シ
ンクさせないことでの可能性も探ることができます。



Modulation

Reverse Mode Cには3タイプのモジュレーションがあり、更に各種は1つの別タイプを備えます(MOD TYPE dipスイッチでアクセスできます)。ムーブメントはディレイタイムにシンクまたは自由にできます。オーディオレートにまでプッシュすると硬質かつ荒い質感となり、不協和なエコーが鳴り始めます。

モジュレーションを有効にするにはモジュレーションタイプを選び、ディレイタイムへシンクするかまたはフリーか選択すればOKです。



SYNC OFF FREE

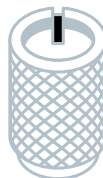


VIB TREM FREQ

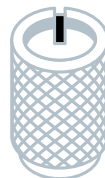
ほらね。



ムーブメントのカスタマイズは隠されたオプション内で行えます。両方をフットスイッチを長押ししながらOFFSETとBALANCEノブでモジュレーションのデプスとレートが設定できます。



OFFSET
DEPTH



BALANCE
RATE

RATEコントロールを最大にして、不協和なサウンドやざらついた質感も探ってみてください。このときはDEPTHの役割も大きく変化します。

SWAP - SWAP dipスイッチ(p34)をオンにするとモジュレーション制御のパラメーターを隠されたオプションではなく、ペダル前面のコントロールとして使うことが出来ます。

Modulation Types



VIBRATO

伝統的なテープスタイルのピッチモジュレーション。エコーにぐにやりとしたビテンテジな質感を加えます。

ALT MODE

CHORUS

揺らめく霧のようなピッチモジュレーション。アンビエンスにドリーミィな雰囲気を与えます。



TREMOLO (SQUARE)

唐突でパーカッシブなボリュームモジュレーション。エコーを切り刻み、存在感のあるリズムを作ります。

ALT MODE

TREMOLO (RAMP DOWN)

派手にうねるボリュームモジュレーション。シンセが貴方のエコーに合わせて演奏されるような、エレクトロニックな質感を生みます。



FREQUENCY SHIFTER (UP)

濃密かつ催眠的なフリークエンシーモジュレーション。サイエンスフィクション映画のような。

ALT MODE

FREQUENCY SHIFTER (DOWN)

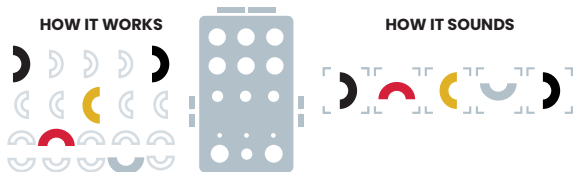
フリークエンシーシフトのもう一つのタイプ。貴方の周波数は継続して螺旋状に下降します。



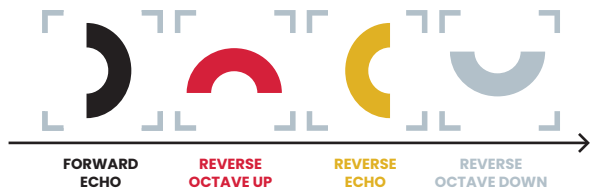
Sequencing

ここからがスペシャルなところです。

シーケンサーはディレイボイスを1つずつ切り替えていくことで、ムーブメントに新たなレイヤーを追加します。その結果、常に形が変わり続けるユニークなエコーとなります。



以下はデフォルトのシーケンスです。通常は無い4つ目のボイス、リバースオクターブダウンが追加されているのに気づくでしょう。これが4ステップのナイスなシーケンスを生むのです。



シーケンサーにはモードが2つあります。

RUN

ディレイタイムに同期した一定のスピードで進み続ける、シンセスタイルのシーケンサー。



ENV

シグナルが入力されたときに次のステップへ進む、エンベロープ制御のシーケンサー。



シンプルに使いたければ、モードを選んでシーケンサーを鳴らすだけでOKです。ですが更に深いところまで追求できるオプションもあります。

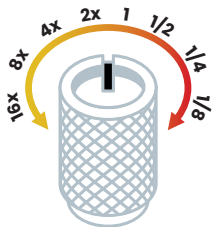
Sequencer Options

隠されたオプションを使って、シーケンサーを貴方好みへカスタマイズできます。



SEQUENCER SPEED

シーケンサーの速度はディレイタイムに同期していますが、速いまたは遅いサブディビジョンを選択もできます。例えばシーケンサーは異なるボイス間を飛び回る長いディレイタイムや、ゆっくりと形を変えるスラップバックディレイ、その中間のあらゆる設定も可能です。



OCTAVES

OCTAVE TYPEのオプションはシーケンサーのパターンにも影響を与えます。

DOWN - オクターブアップをシーケンスから取り除き、オクターブダウンを2回再生します。



***BOTH** - アップとダウン2つが再生されます。



UP - オクターブダウンをシーケンスから取り除き、オクターブアップを2回再生します。



Sequencer Options

REST / SKIP

シーケンサーはBALANCEノブと相互作用にあります。シーケンサーが1つまたは複数のディレイボイスをミュートするようにBALANCEを設定した場合は、以下のうち1つの方法で再生されます。

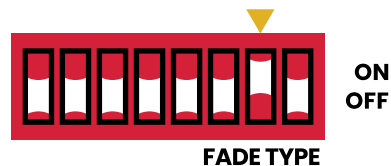
REST - ミュートされたボイスをシーケンサーに残し、シーケンサー内に空白のステップを作ります。



***SKIP** - ミュートされたボイスをシーケンスから取り除き、短いシーケンサーとなります。



FADE TYPE



シーケンサーが次のステップへ移り変わるとき、瞬間的かスムーズかつ徐々に進んでいくかを選択します。

*赤字がデフォルトの設定です。



これこそ双方向!

Customize

Reverse Mode C背面の赤字で書かれたdipスイッチで、ペダルの挙動を微調整しあなたの好みに合わせてファインチューン出来ます。



SWAP

モジュレーションのDEPTHとRATEを隠されたオプションからペダル前面のコントロールへ出します。モジュレーション制御にすぐにアクセスしたい時に。(有効時はOFFSETとBALANCEが隠されたオプションとなります)

MISO

モノイン、ステレオアウト。モノラル入力とスプリットしてステレオ出力します。

SPREAD

フォワードとリバースのディレイボイスをパンさせ、広大なステレオイメージを作ります。

TRAILS

トレイルを有効にすることでペダルをバイパス時にディレイリビートが唐突に消えず、自然にフェードアウトします。

LATCH

フットスイッチの長押し動作をモーメンタリーからラッチへ切り替えます。ラッチ時はエフェクトが再度長押しされるまでかかりっぱなしになります。

FEED TYPE

オクターブエフェクトをフィードバックループの中か外に置くかを設定します。ループの外だと常に一定のピッチシフト、ループの中だと**フィードバックが繰り返されるたびにピッチが上昇(または下降)**します。

FADE TYPE

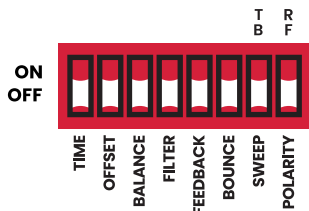
シーケンサーが次のステップへ移り変わるとき、瞬間的か**スムーズかつ徐々に進んでいくか**を選択します。

MOD TYPE

各モジュレーションで用意されている別タイプのプレイヤーへ切り替えます(p26)。

*赤字がデフォルトの設定です。

Ramping

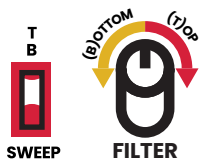


RampingはReverse Mode Cのノブをオートメーションさせる機能です。1回だけの動き(ramp)または連続の動き(bounce)から選択できます。

まずはbounceから始めるほうがわかりやすいでしょう。ノブ自身を自動的にモジュレーションさせるイメージです。



1. Bounceを有効にする。
2. 制御したいノブを選択 (複数可)。




3. スウィープ方向を選択。



4. 速度を設定。



この設定ではオートフィルターのようなモジュレーションが加わり、エコーの動きに新たなレイヤーが追加されたこととなります。ノブの位置はムーブメントの最大または最小位置 (SWEEPの設定により異なります) となるため、重要なセッティングです。

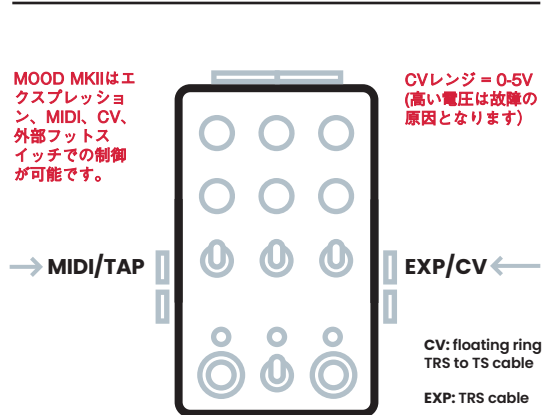
デフォルトではbounceは三角波ですが、 隠されたオプション(p17)で波形を変えることが出来ます。

Rampは同じようなコンセプトですが、ペダルをオンにしたとき1度だけムーブメントが起きます。ノブでriseまたはfallポジションを決め、パラメータはその位置を維持します。Reverse Mode Cをオンにするときに、波のような動きをサウンドへ付加できます。

dipスイッチの入門編マニュアルではより詳しく解説しています。

Rampingは対応するノブのdipスイッチがONになると同時に有効になります。このときMIXノブはRampスピードを変更するノブへ自動的に切り替わります。左フットスイッチを押しながらノブを回すと、Rampが有効のときでもMIXを調整できます。

External Control

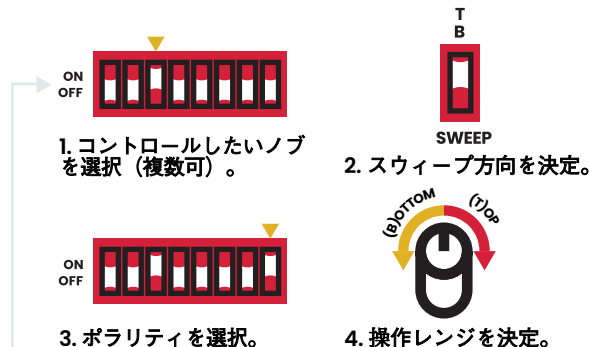


Reverse Mode Cのノブはエクスプレッション、またはCVで制御することができます。

MIDIを使えば、クロックシンク、隠されたオプション、dipスイッチを含むあらゆる要素をコントロールできるようになります。

エクスプレッションまたはCVへパラメーター制御を割り当てるには、rampingと同様にペダル上部のdipスイッチで設定します。制御したいパラメーターを有効にしたら、ペダルはエクスプレッション信号がCVを自動的に検知し、コントロールが割り当てられます。

*何も接続がない場合はrampingへ割り当てられます。



エクスプレッションまたはCVを接続しdipスイッチでも割り当てない場合は、MIXノブを制御します。

MIDI接続にはMIDI信号を1/4インチTRSジャックへ変換するChase Bliss MIDIBOXなどの機器が必要です。MIDIについての詳しい情報はMIDIマニュアルを参照ください。

MIDIジャックにはReverse Mode Cのディレイタイムを制御する外部タップテンポを接続もできます。



BYE

これでReverse Mode Cのマニュアルはおしまいです。
きっとあなたは今、大胆で明るくなっているはず。

もっと知りたい場合は help@chasebliss.com
または国内代理店まで。

いつでもお助けします。

.yojnE
.yojnE
.yojnE



chasebliss.com



01

2023